



9月5日は北上する台風11号の影響が出て南寄りの強い風が吹き、右回りに歩いたので風に押されました。水面は左の写真のように北に向かうに従って吹き寄せられた水が白い波を立てていました。池の東側から南側に入ると、嘘のように風は収まり、林の防風効果を実感しました。途中マツ林のところで、チッチゼミの{チッチッチッ…}という声が聞こえてきました。



イソノキ実

この実は熟すにつれて緑→黄→赤→黒と変化していきます。花は小さいですが昆虫が好み、実は小鳥が好んで食べます。



カラスウリ実

レースでできたような白い花が7月頃から咲き始め9月まで咲きます。実は熟すに従って縦に筋が入り、次第に赤くなっていきます。



アキノノゲシ

切れ込みのある大きな葉を春から広げ夏になるとぐんと背を伸ばし、9月頃から11月頃までクリーム色の花を咲かせます。右はハルノノゲシ



シロオニタケ 林の下で成長していた茸です。白くて傘に尖ったイボがあり、かさを開くと胞子をつけるひだを覆っていたつばが垂れ下がります。つばはしばらくすると脱落します。樹木の根と共生する菌根菌です。



ツルタケ ひだや柄(茎)

が白く暗い灰褐色のかさには筋があります。



コナラの木から葉のついたどんぐりにが落ちる季節になりました。枝先を見るとかじられたような痕があり、どんぐりの帽子にも穴の痕が見られます。これはハイイロチョッキリというゾウムシがどんぐりに穴を開け（長い口で開けます）産卵したあとに葉ごと切り落としたものです。作業時間は180分ほどかかるそうです。どんぐりの中で幼虫は実を食べて土中へ移動し冬を越します。こんなどんぐりを見たら優しい気持ちで道の脇によけてあげましょう。



コサギ この辺りでは夏鳥で、冬には見られなくなります。足の指が黄色く、サギ類の中では一番小型です。



ヒヨドリバナ 周回路の所々で白い花が咲いています。林縁では茎が傾いたり曲がったりしていることが多いです。葉は対生で細長く、花はフジバカマに似ていて、小花が5個ずつ固まっています。ヒヨドリが鳴く頃咲くことからの名で、昔は山で子育てを終えたヒヨドリが里にやってくるのが10月頃だったそうです。



ワキグロサツマノミダマシ
緑色のハゼの実のようなクモです。ハゼの実のことをサツマノ実と呼ぶ地域があることからついた名です。昼間は網の片隅に止まっていることが多いです。



キリギリスおす
夏も終わり、ギーチョンという声あまり聞かれなくなりました。道ばたに居たキリギリスが急いで草の間に逃げて行こうとしています。



上:クルマバッタ 下:マダラバッタ 堤防上でよく見ます。